

**第13回エステティック学術会議開催のご報告**  
**<テーマ> お客様が満足するエステティック**  
**～知識がつくるエステティシヤンの品格～**

**主催：公益財団法人日本エステティック研究財団**

第13回エステティック学術会議は、2019年9月24日（火）厚生労働省の後援、並びに全国理容生活衛生同業組合連合会、全日本美容業生活衛生同業組合連合会、一般社団法人日本エステティック協会、一般社団法人日本エステティック業協会の協力の下、港区にある女性就業支援センターホールにおいて開催し、エステティシヤン、理美容師など169名のご参加をいただくことができました。参加者の皆様をはじめ開催にご協力をいただきました皆様に厚く御礼申し上げます。

\*\*\*\*\*

まず、久米健市 本学術会議会頭（一般社団法人日本エステティック協会理事長）が開会挨拶を行い、「知識がつくるエステティシヤンの品格というテーマのとおり、今日は専門家の先生からさまざまな知識をご教授いただくとともに、エステティシヤンとしてさらに知識を深めるヒントを得ていただければ」と本学術会議の期待を述べた。

続いて、厚生労働省医薬・生活衛生局生活衛生課藤田一郎課長より「本日の学術会議が衛生水準の確保とサービス向上に貢献し、利用者の安心・安全につながることを期待します」と来賓挨拶（同課比嘉敏充課長補佐代読）があった。

最初の講演は、関東裕美 東邦大学医療センター大森病院皮膚科臨床教授で当財団理事長による芝山みよか記念教育講演《エステティシヤンの格を高める必須知識》が行われた。

初めに、2013年から続けている厚生労働科学研究費補助金事業で行った衛生環境、脱毛機器、化粧品等の安全性調査の結果を報告。

あわせて、ヘアカラーやナッツ類を使用した化粧品の皮膚アレルギー等、日々の臨床例を多数紹介し「新しい効果を謳う製品には、新たな被害がある可能性も」と海外化粧品等の危険性についても警戒を呼び掛けた。最後に「皮膚をよく観察し、よく話を聞くことこそが、安全性を高めることにつながる。そのためにもしっかりと知識を持つことが重要です」と品格あるエステティシヤンが増えることを願ってエールを送った。



次に、特別講演《自分を守る お客様を守る衛生管理～「エステティックの衛生基準」改訂のポイント～》と題し、舘田一博 東邦大学医学部微生物・感染症学講座教授が講演した。

感染症専門家の立場から、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催に伴い、エステティックサロンも海外のお客様との皮膚接触により感染症リスクの増加が予想されることから、「感染しない。させない。自分を守り、大事なお客様を守るためにも、手洗いがとても大切です」と衛生管理の徹底を訴えた。また「みんなが当たり前のこととして手洗い・感染症対策を文化としていくことが、おもてなしにつながります」と講演を締めくくった。

続いて、《リラクセーション効果の検証結果について》と題し、塚田弘行 A.C.E. ビューティーサイエンス研究所代表による特別講演が行われた。

これは、研究財団と一般社団法人日本エステティック協会の共同研究による成果発表で、フェイシャルマッサージの施術前後を、心理的側面と生理指標面から変化を測定。その結果、心理的变化としてネガティブな感情が軽減し、生理的变化からは気持ちがゆったりとし、副交感神経が活性しリラックス感が得られた等、リラクセーション効果を裏付ける貴重な成果が報告された。

最後に《いま、知っておくべき知識とは？～高齢化、国際化、多様化の中で～》と題し、パネルディスカッションが行われた。パネラーには、郷和子(エステティックバービー代表、日本エステティック協会副理事長)、興柁文香((株)スリムビューティハウス営業部マネージャー)、三谷麗奈(技能五輪世界二位銀メダリスト、R-Bloom 代表)の三氏を迎え、久米健市会頭がファシリテーターを関東裕美理事長がアドバイザーとして参加した。

まず久米会頭より、エステティックを取り巻く社会変化の中で、高齢化、多様化をキーワードに問題提起がなされ、各パネラーからは、現在店舗で取り組んでいることや今後の課題、理想などエステティックを魅力あるサービス業にするための熱い思いが語られた。



また関東理事長からは「予防医学の時代、エステティックに安らぎを求める方たちにも、無理のない範囲で門戸を開いていってほしい」と多様性への対応を後押しされた。久米会頭からは、「エステティックはAIには取って代われないサービス業なのだから、良い面をもっとアピールしていく。働く人にとっても魅力ある職業となるよう、より公的な資格に近づくよう努めたい」と業界の展望が語られた。

本学術会議は、中井一士当財団副理事長の閉会挨拶をもって閉幕した。